
～ IF ～ 転生して G S

雨風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

＼IF＼転生してGS

【Nコード】

N6080X

【作者名】

雨風

【あらすじ】

これはIFの物語…

あの事務所にもう一人助手がいた。その男は横島同様にある力を持っていた…

その力を狙って運命はどう変わっていくのかそれは神のみぞ知る？

プロローグ（前書き）

新しく作品を書いてみました！

後書きに今後の予定を載せたので暇があれば見てください。

プロローグ

ある世界から転生した…

その世界には仲間がいた

一人は万能な霊能力者の所長

二人目は…：うん、なんというか…：幸先があまりなさそうな男だけど色々としぶとい。

そして三人目が…：生まれた時から運命がわかっていた一人の男？

いや主人公であつた。

これはある世界から転生し、強力な霊能力を身につけ様々な事件を解決していく物語である…

「ところで俺だけ悲しい事言われてないっすか？」

「あら、事実じゃない幸先がないことは」

「だな、大抵はオチ扱いだし」

「ううう、いつか絶対に見返したるうー！」

「くると良いわね？その日が」

「頑張れよー！」

ブログ（後書き）

バカテスを考えているときにこの作品も書いてみたいと思い、書いてみました。

この作品はバカテスがある程度まで出来るまでは不定期更新にしようと思います。

それでは雨風でした

幼少期編第一話（前書き）

第一話が完成したので投稿します！

幼少期編第一話

突然だったんだ。

いつもの学校の授業が終わり、下校中の時だった…

トラックにひかれそうになった女の子を庇って変わりに自分がひかれたんだ。

それで全身打撲、おまけに頭から地面に叩きつけられたから即死だったらしい…

何故そんな事を知っているかだって？

それはね……………

「目の前に庇った女の子がいたからだよ」

「？、誰にいつているのですか？」

「ん？、いやコツチの話だよ」

「そうですか…それでは先ほどの説明を続けますね」

「ああ」

彼女曰わく本来俺はあそこで死ぬのではなく、寿命で死ぬはずだったらしい…

しかもその彼女こそ、俺がいた世界を観測していた天界の使いだったらしいのだ。

だからこそ、その世界でおきる全ての運命を彼女は知っていたのだ…がしかし、

「俺が死んだ事で、今後起きる出来事に亀裂ができた」と

「は、はい。大変申し訳ないのですがその通りです」

そう、偶然だったのだ。たまには観測するだけではなくその世界に入り、体験する事も仕事の一つだったのだ。

が、少しよそ見をした結果死ぬ予定に入っていない人間が死んでしまった。

という事である。なので死んでしまった後どうするかを話し合っているのだ。

「あなたには二つの選択を決められます」

一つ目：このまま天界にいき、そこで新しい転生先が見つかるまで
ゆっくり休む。

二つ目：天界に行くのではなく別世界、つまりは平行世界に転生す
る事。その時は彼女がいろいろと力を貸してくれるらしい。

この二つの選択だ

「今いる世界に戻るのは無理と？」

「戻る事は出来ますが残念ながらその時は寿命がくるまで目覚めま
せん」

理由は頭を強く打った事による植物状態

全身打撲だけですんだだけでも嬉しい事だったが目覚めます事はな
い…

だが悲しい事だけじゃなかった。

「どういうわけか、あなたから凄まじい霊力がわき出ているんです
よ」

「れ、霊力？」

そう、頭を強く打った事により本来開花する事がなかった潜在能力
が覚醒したのだ。

「それでどうしますか？ 天界に行くのなら私が案内しますが」

「…平行世界に行くとして、どついう世界に行けるんだ？」

「それはあなた次第ですが行くとするならば…」

「ほんじゃそこはワイらにまかせてくれないやろか？」

「うん、私たちにね？」

「ッ！？ あ、あなた方は」

「？、どつかでみたような…」

突然二人？の男が現れた。

「勝手ながら失礼だけどね、私達が選んだ世界に行ってくれないだろうか？」

「せやせや、その時はワイらも力をかすさかい」

ふむ……………どこかで見たような気がするが…

「わかった、あなた方が選んだ世界に行くよ」

「ありがとう！それじゃあどんな力が欲しいんだい？大抵の力なら与えられるよ」

「といつても流石にワイらみたいな力は無理やけどな」

「またあなたの姿、身体能力も変えられます」

なるほど…それならば

「とあるマンガの能力なんだが……がいいな。後は、修行場があれば修行するから」

「へえー面白い能力を選んだね」

「修行場の事は安心しや。あっちの方が大歓迎やしな」

「姿はそうだな…今のままでいいや、ただ身体能力は少し上げてほしいね」

「はい分かりました、……あれ？」

「どうしたんだ？」

何か不具合でもあったかな？

「い、いえ何でもありません。他にはないのですか？ないのならこ

れで終わりますが」

.....。

「.....他にあるみたいだね？」

「ああひとつだけ...」

「そのひとつとは何なんや？」

「俺が予想した世界に行くのなら、.....の力を使えるようにしたい。
できるか？」

「「「ッ!？」」「」」

二人の男？は驚愕して女の子の方はやっとわかったようだな...

「ああ、できるとも。けど何でなんだい？」

「何ででもさ、俺は困っている奴がいたら絶対助けるからな」

昔から決めていたしな

「.....ふむ」

「なるほどなあ」

「……………」

三人はしばらく考えていると…

「ええやろ、ワイらからの選別や」

「うん、君は絶対悪用はしないと思うしね」

どうやら二人はわかってくれたようだ

「決まりましたね、それでは始めますよ」

「ああ、頼むよ」

俺は頷くと彼女は自分の両手を前に出した。

……すると何か神々しい力が集まり渦巻き状の空間がでた。

「この世界に入った時は驚くと思いますが、頑張ってください！」

「わかった、それじゃあ行ってくるよ」

そう言うと俺は手を前に突き出して渦巻き状の空間に入っていくた

……………

.....。

「よかったですか？あの力は確か……」
彼がいった後2人の方々に聞いてみた。

「ああいいんだよ、その方がコッチの都合がいいしね」

「.....せやな」

「?どうしたのですか、.....さま」

何か深刻に考えているようだし聞いてみると。

「さっきの彼、かなり身体能力がよくてな」
それは私も思いました。.....けど、

「なぜあんなにも力があるんでしょうか？まるで“初めから”持っていたような気がします」

「ッ!？、そうか……」

.....さまは何かに気づいたようだ。

「どうしたん？キーやん」
「いやサっちゃん、これも『運命』かもしれないね。彼があのを欲しがるのもわかった気がするよ」

「とするとやはり“彼女”を？」

「さ、サっちゃんにキーヤン？」

2人は話し合って夢中だが、私は2人のあだ名に驚いていた。

「なるほどな、せやったらもう少し力を与えておけばよかったやろなあ」

「それは大丈夫でしょ。力の方は嫌でも身につくし…」

「そうなんですか？」

私はひとつの世界しか管理していないから、そこはよくわからないな…

「そうだよ？君もひとつだけではなく複数の世界を管理してみればわかるさ」

「わ、わかりました」

今度から大変になりそうだけど、やってみようかな…

「…………願わくば、今度こそ彼には幸せになってほしいね」

「そつや…アイツは傷つきすぎや…」

「……………（アイツ？）」

その時の私は、わかっていなかった。

彼をその世界に送ることにより他の世界に脅威がでるほどの大事件が起きてしまう事を……

幼少期編第一話（後書き）

こんな感じに書きました。主人公の力は次の話で書こうと思っています。
それでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6080x/>

～IF～転生してGS

2011年10月27日12時12分発行